

『上海市閘北区第一中心小学』を訪問して

情報部 神田 進

平成 14 年 8 月 24 日、職員旅行を兼ねて訪問した。
上海の学校訪問での驚きを中心に紹介する。



この日、上海はこの夏一番の暑さだった。この暑さにまさるとも劣らない「熱烈歓迎」を、楊校長をはじめとする先生方からわたしたちは受けた。特別教室等の見学、学校運営、教育指導のあり方などの説明、意見交流と、あっという間の4時間。上海は1993年より新しい教育理念をかがめ、教育の改革に取り組んでいる。先生方は、この改革の実現に向けて、日夜、研究実践に励み、努力している。代

表の先生方は、この努力に裏打ちされた自信と誇りをもって、第一中心小学の教育について熱く語ってくれた。

1. 第一中心小学校の概略

1928年創設。74年の歴史。陳鶴琴先生(教育家)の教育思想(「すべては児童のため」)に学び、児童の心理の研究をされた。現在、教育実践が好評を得て、学校規模も広げてきている。児童数1300人。教職員98名。(教諭76名・なんと平均年齢28才うらやましい。しかも美男美女ぞろい。元気が出るよ。)学級数33クラス。校舎も新しくつくっている。1年生への入学希望者は、学区外からの希望者をあわせて800名もいる。通学区域の一部自由化され、学区外児童も入学している。現在は、閘北区の重点校であり、いろいろな面での優遇がある。(我が校が学区の自由化になれば様々な点で厳しいだろう。)

2. 上海市の学校のテーマ



「素質教育」・・・児童一人ひとりがもつ各方面の能力・資質を伸ばす。個性の発展。伝統教育から変革している。現在、テキストの改革を行い、全中国で基礎教育の発展に力を入れている。上海市では5・4・3制。中学への入学では義務教育であるが、試験がある。小学校の卒業試験に合格しなかった者は、卒業証書はないが、義務教育であるため中学校へ進学できる。

3. 第一中心小学の教育の重点

①品徳教育(道徳教育)の推進

[背景]一人っ子政策は児童の人格発達形成の面で複雑な影響を与えている。マイナス面(他人のことを考えない。協力することがにがて。譲るという精神の欠如など)の改善



[方法]児童の積極性を発揮させる手だての工夫・・・例えば賞罰の一つとして努力した児童に「星」(シール)を出す。これがひとつのきっかけとなって意欲的になってくる。

もちろん授業だけではない。学校・教室環境も品徳教育(道徳教育)のベースになる。教師は、児童自らが自分で自分を教育する(助ける)ために支援する。

②授業改善の推進

[現状]第2期テキストの改革(実験校として実施)。教科書は国のレベルでの統一教科書(基礎教科書)があるが、学校でも教科ごとに先生が特色ある教科書を作成する。全学年教科担任制で、持ち時間数・・・18～19時間。(少ないようですが、時数だけで仕事の量など決められませんよ。)1単位時間は35分。(日本では指導の1単位時間は45分であるが、子どもの学習時間も45分だろうか。また指導の時間が45分でいいだろうか疑問である。)7時45分始まり。7時20分から8時15分までが自主活動の時間。週2回の研究活動の日を設けている。(我が校では毎週2回の研究日は設けられない。義務出張や校外勤務が多すぎる。授業のある日は公開授業を伴う研究などの教科指導等の研究のみにできないか。と思うことがしばしばある。)

「総合」の授業の実施。科目の枠をはらい、生活とむすびついた内容をテーマに掲げる。情報収集能力、情報活用能力、まとめる力などをつけることがねらい。自分で研究する力、切磋琢磨する力の育成。

Time	Monday	Tuesday	Wednesday	Thursday	Friday
7:45-8:15	Meeting	Reading	Reading	Reading	Reading
8:15-8:45	Chinese	Maths	Science	Chinese Reading	English
8:45-9:15	English	Science	Reading/Listening to records	Oral composition	Chinese Reading
9:15-9:45	Handwriting	Art	Maths	English	Computer
9:45-10:15	Information	Chinese Reading	Music	P.E.	Music
10:15-10:45	Maths	English	Reading for Pleasure	Art	Music
10:45-11:15	Maths	English	Self Learning	Art	Music
11:15-11:45	Fast Maths	Fast Maths	Fast Maths	Fast Maths	Fast Maths

[方法]外国語教育(英語)の重視・・・1年生から週5時間英語の授業実施。(目標:高校までには英会話ができるレベルにする。)左の写真は、時間割を英語で記述しているものである。自然科目や算数の時間に英語で授業をする。

国文の時間でも、英語で授業を行うことがある。

算数を英語でテストすることもある。

(我が校で英語教育が必要かどうかは、将来社会人になったら必要かどうかに関わることである。保護者の生活範囲ではほとんど必要としていない。また、教職員も生活上必要としていない。しかし、子どもが将来大人になってから必要とする子どもがいれば英語の教育をしなければならないであろう。)

③教師の育成(予算人事権のある校長がさせている。私にも学校あてに多くの予算権と人事権があれば、もっともっといい学校にしてみせるぞ。)

[理由]教育の発展に力を入れている。先生の質の向上が児童の質の向上につながる。学校全体のレベルアップを図りたい。時代のニーズに合わせて、専門的知識が要求されている。

[方法]在職トレーニング・・・経験年数によって研修時間単位のクリア(5年ごとに240時間研修の義務付け)(日本で言う5年研修のようなもの。)

専門的知識の要求・・・一部の能力の面で試験を課す。(例:英会話、標準語の試験、コンピュータ活用能力試験など)

自己研修への課題・・・読書ノルマ数の提示。

ヨーロッパやオーストラリアなどへ海外研修派遣もしている。

※学校長に人事権・予算権がある。採用に当たって、先生は学校長と面接を行い、勤務条件などの契約を結ぶ。契約期間は、1年から3年間である。契約できなかった先生は、職業安定所のような所で他の学校を探し、契約をしての勤めとなる。(契約で教員をしている。教育の機会均等や安定して職務専念することに問題もあろうが、子どもの教育を最優先するという点ではその方がいいのかもしれない。今後勉強してみたいことである。)

4. 主要教科の指導法改善

①国語(多読主義へ)

まず読めること。次に書けること。できるだけ多く読ます。1年生からの読書指導。年齢・学年に応じて推薦図書リストの作成。目標読書数の設定。

②算数(数学の大衆化)

[目標]すべての児童が基礎学力を身につける。自分に合う勉強をする。

[方法]

- ・実験重視。
- ・数学を勉強して作文を書く。
- ・マルチメディアの活用。

5. 評価方法と児童へのかかわり(参加している先生からのお話)

・学期ごとに先生と児童が対話の重視。(私は・・・と思う。あなたは・・・思う?)

・成長の冊子(児童の成長の記録)

「星」が取れない児童への対応・・・競争主義に陥るのではなく、私たちは児童を尊重することを基本にすえている。児童の心理を尊重しなければならない。児童に近づき、児童の心の中に入る。陳先生の教えでもある。家庭との協力が、

不可欠。学校は親の思いを受けとめ、親と同じレベルで教育する。家庭からの見学歓迎している。

- ・特別配慮を要する児童(ごく一部に見られる・不登校など)・・・専門の教育(テキスト)を用意する。
- ・目標の設定と達成のための研究活動の重視。
例 3年・・・独学と協力 5年・・・自分で研究
- ・個々の能力に合わせて宿題を出し、テストを用意する。

6. その他

- ・学校行事は津山市内の学校と同じようなものがある。山への宿泊行事があり、修養の場、集団生活の場としている。



校内で京劇の発表会



子どもの新聞

- ・校内ネットワークの整備。(今年中には上海すべての学校に)



- ・正面玄関には門扉・敷地内を塀で囲んである。児童の安全面の配慮ができています。

- ・学校給食の実施。

(学校給食の試食をした。特別メニューであった。左のようなごちそうをいただいた。おいしかった。)

おわりに

「児童尊重」が学校教育の基本にすえ、教育改革に向けて、教職員自らが積極的に取り組んでいる印象を受けた。教科の専門家としての力量を高めるために自己研鑽に励み、努力している。また、行政・学校長もそのための研修機会を提供し、努力義務も課している。保護者の教育要求も高く、教師の責任は重い。懇切丁寧な指導によって、保護者の信頼を得ている。

中国(上海)は「開放」の理念のもと、積極的に他国の教育交流をすすめていこうとしている。「交流はお互いを啓発します。こどもの啓発のために

努力していきましょう。」と言われた楊校長のことばが、印象に残っている。